

ぶどうのせん定

ぶどうのせん定は単純作業に見えますが、生育を揃えたり、結果枝の間隔を適正にするために重要な作業です。寒いなかでの作業となりますので、しっかり防寒対策して取り組みましょう。

1 ぶどうのせん定の原則

- ・せん定後の乾燥による枯れ込みを防止するため、犠牲芽せん定（使用する芽の1節先で切除）とします。

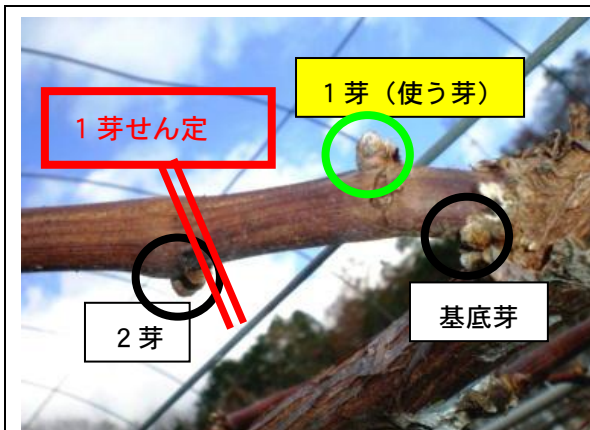
【時期】成木：1月上旬～2月中旬（ハウス栽培では保温開始直前まで）

若木：2月中旬（厳寒期を過ぎてから）

2 結果枝のせん定

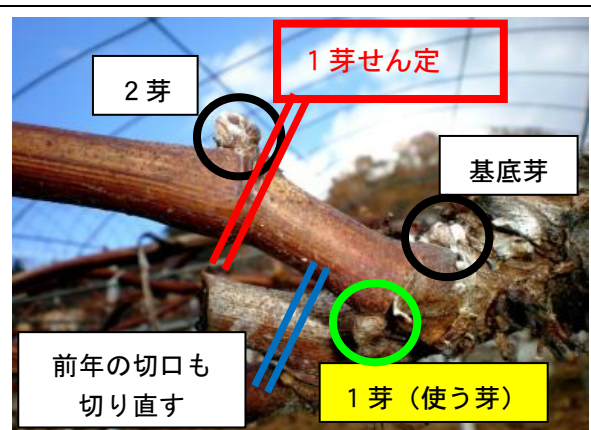
- ・結果枝のせん定の基本は1芽せん定（1芽を残してせん定）です。
- ・1年目の結果枝は、1芽までの節間が長いので、基底芽せん定にならないように注意しましょう。
- ・2年目以降の結果枝は、結果母枝の枯れた部分も切除します。
- ・結果枝の適正な間隔はピオーネで20cm、シャインマスカットで25cm程度です。この間隔よりも狭い場合は、せん定時に芽座ごと切除し、芽かきの労力軽減を図りましょう。

1年目の結果枝（初成り部分）



- ・初成り部分の結果枝は、1芽までの節間が長いものがある。
- ・1芽せん定を行い、基底芽せん定にならないように注意。
(基底芽は発芽・伸長不良になりやすい)

2年目以降の結果枝



- ・2年目以降の結果枝は、節間がやや短いものが多い。
- ・1芽は基部～5mm付近にある場合が多く、1cm以上なら2芽の場合が多い

図1 結果枝のせん定方法

3 若木（1年目）のせん定

- ・ 枝の伸長程度と枝の太さによってせん定位置を決めます。無理に長く残しすぎると、今後の生育不良を招きますので、充実している箇所（直径10mm以上）まで切り返します。
- ・ 基部よりの芽は発芽しにくいので、内側の主枝候補の枝を出したい位置の芽から先端部方向へ2～3mmの箇所には芽傷ハサミなどで深さ1～1.5mm程度の傷をつけ、発芽を促します。処理時期は樹液が流動する前の2月下旬～3月上旬が適期です。

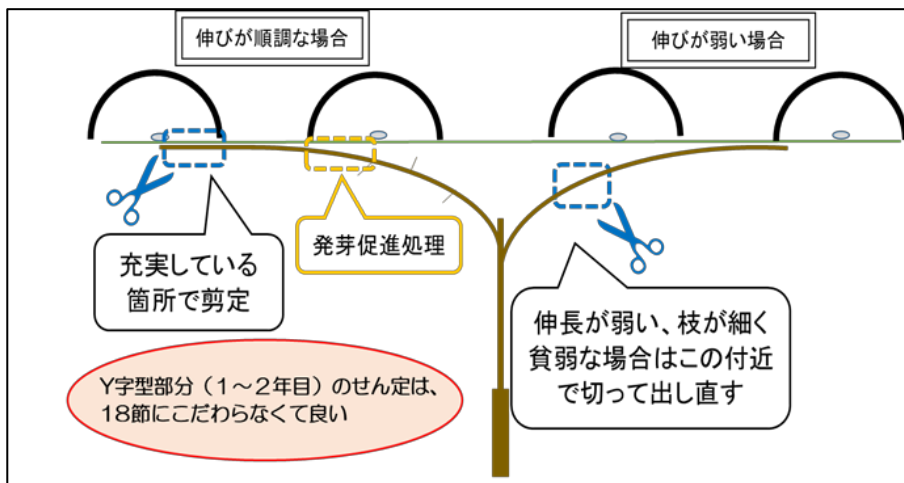


図2 1年目のせん定位置



図3 芽傷の様子

4 若木（2年目以降）のせん定

- ・ 主枝延長枝は長く残すほど基部が発芽しにくくなるので、生育が順調な場合でも18節を目安に切り返します。充実不良の場合は、18節にこだわらず充実した部分まで切り返します。
- ・ 主枝延長枝の先端2～3芽以外は、上記の芽傷処理を施し、発芽を促します。

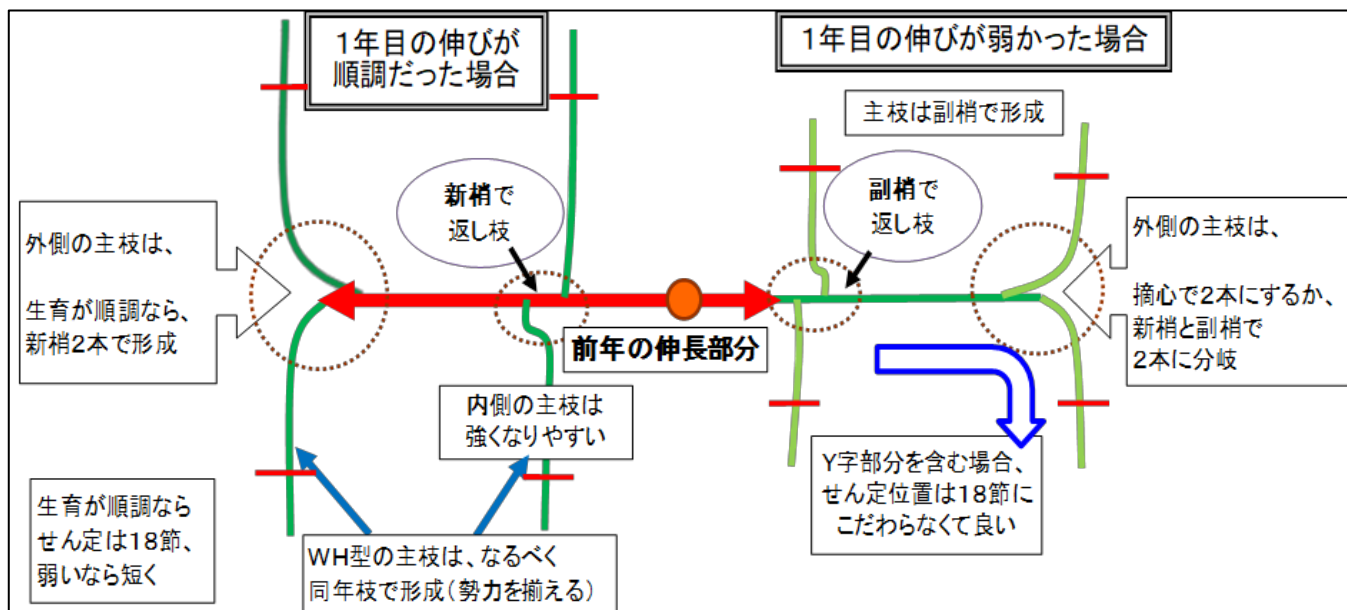


図4 2年目のせん定位置